

アート・インキュベーション シリーズ8 (Japan Contemporaries Series 8)

STEPPING INTO A WORLD III

キュレーター 安達元一、佐藤恭子

ギャラリー・マックス・ニューヨーク | Gallery Max New York

552 Broadway, New York, NY 10012 | (212) 925-7017

2024年7月18日 (木) - 24日 (水)

レセプションとパフォーマンス：2024年7月18日 (木) 18-20時

テンリ文化協会 | Tenri Cultural Institute

43A W 13th St, New York, NY 10011 | (212) 645-2800

2024年7月16日 (月) - 22日 (月)

レセプションとパフォーマンス：2024年7月19日 (金) 18-20時



アーティスト:

[最優秀賞] 野呂圭一

[優秀賞] 宮塚春美、伊丹裕、飛澤龍神、三好久美子、月水音舞美、里石真留美、河野眞成、ラッシャーM

[準優秀賞] 巳、Nakibokuro、渡部直也、高橋彩華、柏村早織里、サヤ、後藤智弘、ワタベ、イワイヨシコ

[入選] AyaNe.、Dragon Artist TAKAKO、ふなやまえみ、高木章江、ヒカル、一、仁翠、大西和子、カークヌール、湖春、後藤実樹、美遊、NOCCI、カ石咲、三羽聡明、大西理史、シェリー チェン、廣安修像 (AMEDIOS AMEDIOS)、中島園子、SWAT、古屋タカシ

[ゲスト | NYフロント・ランナー]

フィロズ・マハムド、タカハシヒデキ、ジョー・ピスコピア、レス・ジョーンズ、岡野真人、藤島マックス、M・ヤクブ、レイナー・ゲナル 他

「Stepping Into A World III」展は、エミー賞放送作家の安達元一と在ニューヨークで日本文化の紹介で知られるキュレーターの佐藤恭子が手を組んだ展覧会シリーズの第8弾で、公募して審査を通過したアーティストの作品を展示します。本シリーズでは、ジャンルや経歴にとらわれずに興味深い作品を制作し日本で活躍している39名のアーティストを、世界最先端のアートシーンに取り込んで、ニューヨークを拠点に世界で活動するフロントランナーたちをゲスト展示し、効果的に交流をし互いに刺激を与えます。しかも今回は、2会場で拡大開催し、さらにもっともカジュアルなジャパン・コンテンポラリーズ (シリーズ9、ギャラリー60) も同時開催し、夏のニューヨークに日本美術旋風を起こします。

公募の審査員は、レス・ジョーンズ博士 (コロンビア大学リサーチ・スカラー、キュレーター) 徳光健治 (タグポート代表)、花田淳 (銀座花田美術代表)、安達元一 (エミー賞放送作家)、佐藤恭子 (NYキュレーター) が務めました。

「日本のテレビ界で長年活躍してきた感覚で美術界を斬る。古くからの伝統を重んじる世界に、自由奔放な発想で新しい風を吹かせたい。有名な美術大学を出ていなくても、有力なギャラリーの庇護を受けていなくても、美しい作品は美しい、面白い作品は面白い。魅力的なアーティストを世界で暴れさせてみたい。そんな型破りの挑戦を今回してみたいと思います。」

— 安達元一

日本は第二次世界大戦に敗れましたが、その後、多くの日本人アーティストが世界での成功を夢見てニューヨークに渡りました。戦後から80年近く経ち、業界の状況は変化しているものの、今でもその潮流は変わりありません。Stepping Into A World III 展に選ばれたアーティストの多くはニューヨークで展示を初体験し、大きな一歩を踏み出します。

作品は、写真、絵画、プリント、彫刻、インスタレーションなどで、本展を通じて今現在の日本で活動するアーティストたちが何に関心を持ち、どんな表現をし、どのようなテクニックを駆使しているかを総観することができます。また、多くのアーティストがパフォーマンスを行い、テンリ会場のレセプション時はパフォーマンスが次々と繰り広げられるジャングルのようなでしょう。またマックスギャラリーでは、狂言師の和泉元彌が本展のために新たに録音した声でDragon Artist TAKAKOと共演します。

歴史的なマスター、例えば国吉康雄（1910年にニューヨークへ移住）、オノヨーコ（1951年）、草間彌生（1957年）、河原温（1965年）、篠原有司男（1969年）、千住博（1993年）、村上隆（2001年）らにもニューヨークの最初の一步、初展示はありました。本展のアーティストから、将来、そんな世界的なアーティストが生まれることを期待せずにはられません。

ニューヨークへ来て、住み始めると刻々と作風が変わります。ゲスト展示の国際的なアーティストたちも、バングラデッシュ（フィロズ・マハムド）、ケニア（Mヤクブ）、オーストリア（レイナー・ゲナル）、ニューヨーク（ジョー・ピスコピア、レス・ジョーンズ）、日本（タハカシヒデキ、岡野真人、藤島マックス）とそれぞれの出身地の文化的背景を自分のものにして作品制作をしていることが感じ取れるでしょう。

一 佐藤恭子

[最優秀賞]

野呂圭一 略歴

北海道を拠点に活動する独学の写真家、アーティスト。1972年生まれ。特に洞爺湖周辺で厳しく美しい自然を撮影。LUMIX AWARDスナップ部門優秀賞（2019年、パナソニック、東京）、第4回Life with Coffee フォトコンテスト、グランプリ（2019年、全日本コーヒー協会、東京、池袋サンシャイン）、LUMIX AWARD 2020 PHOTO & MOVIE CONTEST 動画部門最優秀賞（2020年、パナソニック、東京）、北海道観光振興機構 LOVEHOKKAIDOホームページ掲載（2020年、北海道）、GFX Challenge program 世界45人枠選出（2022年、富士フィルム、東京）、KYOTOGRAPHIE KG+ 「JAPAN PHOTO AWARD + INTUITION」 （2023年、ジャパンフォトアワード、HOTEL ANTEROOM KYOTO | Gallery 9.5、京都）。

[優秀賞]

			
宮塚春美	伊丹裕	飛澤龍神	三好久美子
			
月水音舞美	里石真留美	河野眞成	ラッシャーM